

塩浜学園の先生方と若者たちへのメッセージ

新年度を迎え、コロナ禍の中でも、新たな気持ちで勉強に部活動に頑張ろうと思っているみなさんへ。松井校長先生から、一文の寄稿を依頼されて、まだお会いしたことも、見たこともない方々に語りかけるイメージが湧きませんが、一言だけ、お話ししたいことを書きます。少し難しい言葉ばかりが出てきますので、先生方に聞いてくださいね。



今のわが国は、少子高齢化や経済成長の低迷や地震などの天災・人災への備え、いじめ、加えて最近のコロナ禍といった手強い五重苦に苦しんでいる現状にあります。しかし、わが国は過去にも幾多の試練を克服してきました。そして、世界各国に外交官として赴任するチャンスに恵まれた私の経験からすると、世界には知られざる親日国が多くあり、日本に期待している国が沢山あります。はっきり言えば、わが国の近くの2カ国を除けば、すべてが親日国と言ってもいいくらいです。日本で学んでいることに誇りをもってください。

たとえば、一つの例として、私が2010年から在パナマ日本国特命全権大使をしていた時には、東日本大震災が発生しました。その時は、私はちょうど現地日本人学校の卒業式に出向いていた時でした。領事担当の一等書記官が、突然来て私に耳打ちし、マルティネリ大統領（当時）が発生当日に日本大使館を訪ねて哀悼の意を表しに来られるということで至急大使館に戻ってくださいと告げられ、急ぎよ戻って状況を説明申し上げました。また、日本人が天災にあっても秩序正しく、協力しあって略奪（Looting）がない姿にみな感動され、犠牲者を追悼するミサをバレウ副大統領（後に大統領）が盛大に催してくれました。加えて、日本庭園を作りたいということでパナマ外務省の費用で首都にできました。さらに、マルティネリ大統領の日本訪問の際は、共同記者発表の場で、尖閣諸島に関し我が国を支持することを明言されました。国家元首が尖閣について日本支持を明言されたのは私の知る限りこれが最初でした。この事実は、皆さんの耳には届いていないでしょう。

また、当方の働きかけもあって、パナマ当局が「日本政府の原発事故の情報を信頼する」とメディアでも明言してくれたことから、パナマ運河の通行に関して放射能の風評被害もなく、物流の要衝にあるパナマによる何よりの支援となりました。今年の3月末に、スエズ運河で日本所有の大型船が座礁した際、ガソリンの値上げや物流に支障をきたしたように、みなさんの日常からは見えなくても、二大運河は日本にとっても物流の要衝にあるのです。にもかかわらず、日本では子どもたちが福島から来た子どもたちを根拠なく放射能汚染とか言っているというニュースを見るにつけ、驚きと悲しい気持ちになります。

最後に、まだ若く、エネルギーに満ちた児童、生徒のみなさまには、どんなに今が苦しくても、ガリレオではないですが「それでも地球は回る」よって「朝の来ない夜はない」、だから「必ず未来は変わることができる」と信じて、運命を自ら切り開いて、世界中に良き仲間を作ってほしいと願うばかりです。国と国との関係には難しい問題もありますが、人と人にも地球環境にも国境はありません。共に携えて未来を創っていくしか地球人類が生き残る道はありません。

「魚は頭から腐る」といわれますが、このことは、逆に言えば「組織はトップによって変わる」ということでもあります。松井先生が校長になられた学校は幸せですね。笑顔や輝く目が見えてきます。魚の鮮度を見極める際には目を見よと言われます。子供の目の輝き。ベトナムでは私も感動しましたが、松井校長以下、各先生方も子供の目を見つめて、一人でも多くの目が一層輝けるように、いじめや差別や鬱になる子が一人もいなくなるように、自分なりの夢を持って自分の向上に向けて努力を続けられるように、祈念するばかりです。

令和3年5月 元外交官より